

石川病薬ニュース

石川県病院薬剤師会会報

令和2年(2020)/7.31 発行 No. 174

CONTENTS

- ・巻頭言
- ・第70回 石川県病院薬剤師会 定例総会
- ・学位取得者紹介
- ・新任薬剤師紹介
- ・薬局の窓口から

- ・エキスパートに聞く! ~輝く石川のキラ星~
- ・日病薬e-learningを受講して
- ・他都道府県病薬会誌寄贈一覧
- ・南船北馬
- ・寄稿



〔巻頭言〕

BCP作成などの当院薬剤部のCOVID-19に対する取組み事例について

石川県病院薬剤師会 理事 嶋田 努…… 1
 金沢大学附属病院 副薬剤部長

〔第70回 石川県病院薬剤師会 定例総会〕

書面決議	3
平成31年度／令和元年度 事業報告	4
平成31年度／令和元年度 決算報告・会計監査報告	10
令和2年度 事業計画	11
令和2年度 予算	12
平成31年度／令和元年度 石川県病院薬剤師会共催事業	13
平成31年度／令和元年度 石川県病院薬剤師会後援事業	14

〔学位取得者紹介〕

希少がん治療における安全性の向上を指向した有害事象管理・個別化薬物療法の開発 金沢大学附属病院 スタッフ由紀子……	15
Human monocarboxylate transporter 1, 4 (hMCT1,4)の基質選択性の違いを決定する 分子メカニズムに関する研究 金沢大学附属病院 二木 悠哉……	19

〔新任薬剤師紹介〕 22

〔薬局の窓口から (78)〕

「吸入デバイスの特徴」「吸入薬の分類」 浅ノ川総合病院 奥村 雅美…… 30

〔エキスパートに聞く！ ～輝く石川のキラ星～ (16)〕

『DMAT (Disaster Medical Assistance Team) 隊員』
 石川県立中央病院 台蔵 剛士…… 38

〔日病薬のeラーニングを受講して〕

金沢医科大学病院 荒井 涼子
 平田ゆかり…… 42

〔他都道府県病薬会誌寄贈一覧〕 43

〔南船北馬〕 44

〔寄稿〕

「古寺との結縁-51」 那谷寺 ～歴史と紅葉に彩られ～ 院瀬見義弘…… 45

〔編集後記〕

〔病薬ニュース発行欄〕

表紙写真 撮影
 : 熊走 尚志

ひまわりと鼠多門

河北潟にあるひまわり畑。ここ数日天候に恵まれず、早朝のため日差しがなく残念であった。今度
 はもっと天気の良い日にさらに上空から見てみたいものだ。

完成間際の鼠多門。金沢城御三門（石川門、河北門、橋爪門）の枳形門と違い石垣の上に2層2階
 の櫓の単体の門となる。約130年ぶりに復活となり、尾山神社と玉泉院丸を結ぶ鼠多門橋が架けられる。

BCP 作成などの当院薬剤部の COVID-19 に対する取組み事例について

金沢大学附属病院薬剤部 准教授 薬剤部副部長 嶋田 努

金沢大学附属病院薬剤部の嶋田と申します。平成27年度よりホームページ委員長を拝命し、石川県病院薬剤師会会員の皆様と県内病院に薬剤師として就職希望の学生に有用な情報提供をすべく、委員の先生方と話し合いを重ねながら新たなコンテンツ作りを進めております。「このようなコンテンツを加えてほしい」等の要望がありましたら、是非連絡いただければ幸いです。

さて、本巻頭言の執筆依頼された3月初旬では想定しえないCOVID-19が全世界で拡大しています。石川県においても、4月上旬ごろより感染者数が急増しており、県内の会員施設におきましてもこれまでに経験したことの無い緊迫した状況が続いていることかと思えます。国内外に関わらず政府や各業種においてCOVID-19への対策を模索している現状であり、我々病院薬剤師も医療従事者の一員として、未曾有の感染症拡大に対して何をすべきか、何が出来るか？逆境をプラスに変えるべく今一度検討すべきではないでしょうか。そこで本巻頭言では当院薬剤部のCOVID-19に対する対応について、一施設の取組み事例として紹介させていただきます。

- ① 薬剤部独自の事業継続計画（BCP）作成：平時の業務体制において薬剤部内でCOVID-19感染者が発生すると薬剤部のみならず病院全体の業務が大幅に停滞することになります。臨時休校に伴う休業やCOVID-19対応による病院機能縮小なども考慮し、2月より「段階的で計画的な業務基準を決めることにより薬剤部業務の継続性（院内の医薬品供給体制を止めない）と部員の健康・安全を確保する」ことを目的として、教職員の健康管理徹底、部内感染回避のための物理的ゾーニング、業務可能人数に応じた業務実施内容、などを盛り込んだ部内BCP作成し、運用しました。
- ② COVID-19治療医薬品情報収集と運用フロー作成：COVID-19拡大に伴い真偽不明なCOVID-19治療薬に関する報告が飛び交い、また医薬品の出荷調整がなされました。アビガンの国内臨床試験の開始やレムデシビルの承認もありました。これら錯綜・急変する医薬品情報を薬剤部として集約し、

エビデンスの高い治療薬をCOVID-19感染治療のために安定供給すべく、施設内外の関係各所から情報収集、運用フローを作成し、運用しました。

- ③ 長期処方・電話診療に対する院外処方箋のFAX受送信フロー作成：2月28日の厚労省通知文を元に院内システムを考慮し、電話診療に対する院外処方箋のFAX受送信の最適なフローを作成しました。また、4月10日通知にも対応しました。
- ④ 消毒用アルコールの院内製剤調製：サージカルマスクの欠品に続き消毒用エタノール製剤のひっ迫を想定し、2月下旬より対応を開始しました。院内消毒用エタノールの購入実績や今後の需要拡大、安定購入の観点からイソプロピルアルコールの希釈調製による院内製剤を作成することとしました。試薬を用いた院内製剤であることから、使用範囲を職員・学生に限定したうえで関連部門に申請し承認を得ました。現在900本の消毒用アルコール院内製剤を作成し、消毒用アルコールの安定供給に寄与しました。
- ⑤ コロナ診療チーム支援薬剤師の配置：当院でCOVID-19患者の受入れが決定した際に医師・看護師等によるコロナ診療チームが結成されました。コロナ診療チームに対して薬物療法に対する助言や医薬品管理など後方支援を行う専任薬剤師を配置しました。

上記対応は、薬剤部業務の継続性と部員の健康・安全の観点から日々変わり行く情勢を見極め、対応が後手にならないように部内で検討し決定していきました。今後はいつどの時点でBCPレベルを通常業務レベルに戻すか、きたる第2波、第3波にどのように対応していくか、継続的な検討の必要性を感じています。各会員施設の病床機能や施設が抱える事情等で当然薬剤師による対応は異なってくると思いますが、平時から業務継続に向けた対応について検討を重ね、地域医療を支え築いていくことの重要性を強く学びました。